

安部日鋼工業、セメント使用抑制へ



工場で製造したプレストレスト・コンクリート床版。プレキャスト製品の低炭素化を推進していく＝本巣市曾井中島、安部日鋼工業岐阜本巣工場

国は2月に公共工事発注者に求める新たな「運用指針」をまとめた。新指針では「技術開発の推進と新技術などの活用」が追加された。4月から各自治体で運用される。発注者は価格に加え、工期、安全性、生産性、脱炭素などの要素も考慮した総合的に価値が最も高い資材の採用を促すように努め、脱炭素化に向けた技術や工夫が活用されるように配慮が求められる。セメント製造では原料の

スラグに70%置き換え

公共工事で脱炭素提案

プレストレスト・コンクリート(PC)製造の安部日鋼工業(岐阜市六条大溝、井手口哲朗社長)は、工場で生産する橋桁などプレキャスト製品について、コンクリート原料の一部を製鉄所の製造過程で副産される「高炉スラグ微粉末」に置き換え、セメント使用量を抑える提案を本格化させる。公共工事の脱炭素化の流れを捉え、セメントの70%をスラグに置き換える業界トップクラスの低炭素技術を武器に、建設業界の脱炭素化をリードする。(青山和史)

石灰石を焼く工程で二酸化炭素(CO₂)が多く排出されており、脱炭素技術の研究が進んでいる。PC業界ではセメントの50%をスラグに置き換え、セメント使用量を減らす技術が普及している。

同社は愛知工業大との共同研究によって、さらに置き換え率を20%引き上げる独自技術を持つ。建築部材の製造にかかるCO₂排出量を大幅に抑えることができると、新指針の運用を好機とみる。独自技術を積極的に

的にアピールし、建設業界の生産性向上や環境負荷低減に貢献したい考え。井手口社長は「今後はより社会便益効果が求められる。低炭素プレストレスト・コンクリートで社会の期待に応える」と意気込む。